

外国人との関わりから考える人権

守山南中学校三年 三上 明日香

「日本が世界でナンバーワンだ！」

「外国人差別って何が悪いの？」

最近私はSNSで、このような衝撃的なコメントを目にしました。

冗談か真面目かはわかりませんが、世の中にはこんな信じられないことを述べる人がいるのだと、恐ろしくなりました。こんなコメントがある時点で、我が國の人権学習は完璧に行き届いていないことは明白であり、これは誰かの人権を軽く扱う空気を生み出す火種になりますうると考えたからです。

最近、世界の国々の傾向として「自国ファースト」の動きが強まっています。日本でもこのことを訴える声が目立つようになり、外国人政策などについての議論も巻き起こっています。自分の国を大事にすることは良いことです。しかし私が懸念しているのは、それが「他国の文化や人々を下げる」とセットになる危険性が隠れていることです。

日本に住む外国人は年々増え、私の住む地域でも、外国から来て働く人々をよく見かけます。彼らは同じ町で同じように穏やかな日常を送っているのに、インターネット上では彼らに対する排他的な言葉も見られます。

改善策としては、互いが分かり合うために努力することが挙げられます。自國以外の国に住んだり旅行したりする際は「郷に入つては郷に従え」という言葉通り、その国についてよく調べ、ある程度従わなければならぬことを理解する必要があります。受け入れる側は様々な文化に対する知識を深めるべきだと思います。例えば、日本では特定の宗教を信仰しない人も多いために 관심が薄く、学校でも詳しく習わないでの知識が不十分です。

また、私は二か月後に開催予定の国際交流イベントを現在企画しております、参加フォームやポスター制作、材料調達や広報などを急ピッチで進めている最中です。外国人のゲストを迎えるクイズとクラフト、クッキングなど多角的な交流を考えています。ほぼ一人での、かつ、初めてのこの挑戦は決して楽ではありませんが、人権や尊厳を守る社会は、私たち一人一人が差別や拒絶よりも、理解しようとする歩み寄りを選ぶことでしか創れないと思います。その当たり前を自らの行動で示し続けることが最重要ではないでしょうか。私はささやかな言葉や出会いでも、人の視野を広げられることを信じ、常に人権の意識を心に留めて日々を過ごしていきたいと思います。